

熊沢半蔵 1924—1997



プロフィール

大正 13 年、浅草雷門（旧田原町）に生まれる。

明治初めに創業した老舗の和菓子店、浅草「鮎松月」が実家。昭和 37 年にのれん分けして文京区千駄木に鮎松月団子坂に店を出す。

戦後、アメリカ製の中古 8 ミリカメラを手に入れ、その後国産 8 ミリを買ってアニメーション製作を始める。

1960 年代半ば、8 ミリ仲間で「日本アマチュア・アニメーション協会」を結成、その会員として年一本の作品製作に励む。「チャンバラ」「曲馬団」「赤とんぼ」「ジャリガキ」などのショート作品がある。

平成 9 年 1 月 30 日、73 歳で亡くなる前年まで作品を作りつづけた。

キネマ旬報社の日本映画監督全集（昭和 51 年）には「毎年必ず他人の期待に応えうる水準の個性ゆたかな作品を、同一作家が長期にわたって作り続けている、という点で記録にとどめたい。ましてや日本のアニメ自体が苦手であるのびやかな笑いを特色とする点、貴重な存在といえるのだ」とある。

年に一回の「日本アマチュア・アニメーション協会」の発表会のほか、地域での上映会ではいつも自らフィルムを回した。1990 年の「浅草シネマフェスティバル」ではゲストで出演。現在フィルムは東京国立近代美術館フィルムセンターに所蔵されている。

「家の前の電車通りを渡ればもう興行街。学校の勉強もほどほどに、もっぱら六区で学びました。まずは水族館のカジノフォーリー（エノケン、二村定一）、松竹座の松竹少女歌劇（ターキー、オリエ）、常盤座の笑いの王国（ロッパ、生駒雷遊）から始まってシミキン、森川信等…戦前の懐かしい思い出です。

アニメーションとの出会いはやはり子供のころのディズニーの「シリーシンフォニー」やフライシャーの「ポパイ」などのアメリカマンガ映画です。特にディズニーはまだ劇映画がほとんどモノクロの時代に、いち早くテクニカラーを使用してアニメーションを製作。それはもう夢を見ているようなすばらしい作品でした。

戦後三～四年ごろからぼつぼつ、カメラ屋の店頭にアメリカの 8 ミリカメラが並び始めました。やっとの思いで手にいれました。もちろん中古品です。その後、国産 8 ミリが出回り、1 コマ撮りのできるカメラを手にしたとき、何か作ってみたくて手製の人形を動かしてみたり、影絵の作品を作ったりしました。そのうち世の中にじょじょに 8 ミリ流行の兆しが見えてきました。

昭和 30 年代最後か、40 年になっていたでしょうか。8 ミリ仲間のアニメ好き人間が集まりまして、なんと、日本アマチュア・アニメーション協会を結成するという話が盛り上がり、私も喜んで参加しました。それからは毎月の例会でお互いの交流を深めながら、毎年 1 回の発表会に向けて、年 1 本のアニメーション作品製作に励んでいるんです

（熊沢半蔵さん談話、1990 年）

熊沢半蔵 1924—1997



フィルムグラフィー

No.	収録順	題名	製作年	時間 (分)	形状	色	音
1	2	エンコの朝 (実写)	1958.1	6	レギュラー(ダブル)8	白黒	S
2	4	みんなでおしばい (実写)	1958	6	レギュラー(ダブル)8	白黒	S
3	3	かぼちゃ	1960.08	6	レギュラー(ダブル)8	白黒	S
4	1	からすのしかえし	1963.09	5	レギュラー(ダブル)8	カラー	S
5	5	チャンバラ	1974	1	スーパー-8	カラー	M
6	9	ジツロク日本昔ばなし	1974	3	スーパー-8	カラー	M
7	6	曲馬団	1975	3	スーパー-8	カラー	M
8	7	小さな夢	1976	2	スーパー-8	カラー	S
9	8	おまつりの日	1977	5	スーパー-8	カラー	M
10	10	赤とんぼ	1979	3	スーパー-8	カラー	M
11	11	ついてない	1980	4	スーパー-8	カラー	M
12	12	なんとなくクラシテル	1981	3	スーパー-8	カラー	M
13	13	ジャリがき	1982	5	スーパー-8	カラー	M
14	14	日本のむかしの話 ジツロク天女の羽衣	1983	5	スーパー-8	カラー	M
15	15	にくたれガキ	1984	3	スーパー-8	カラー	M
16	16	奇術小屋	1985	3	スーパー-8	カラー	M
17	17	遠い花火	1986	7	スーパー-8	カラー	M
18	18	紙芝居	1987	4	スーパー-8	カラー	M
19	19	桃太郎	1988	3	スーパー-8	カラー	M
20	20	テルテルぼうず	1989	1	スーパー-8	カラー	M
21	21	うらしま太郎	1990	1	スーパー-8	カラー	M
22	22	気合術	1991	1	スーパー-8	カラー	M